注文用FAX用紙　**三恵社 新刊のご案内　2025年4月21日（月）発売**

庶民金融機関の戦後史 ～大衆と倶に永久に栄えん～

著　由里 宗之

コミュニティ・バンク研究における第一人者の集大成ともいえる、すべての金融機関従事者必携の一冊

―仕事に確かな意味を見出し励み続けた信金・しんくみ・相銀のルーツと歩み―

第１講　庶民金融機関とは？　そして「庶民金融のこころ」とは？
第２講　戦争直後のＧＨＱ金融改革と「信用組合」・「無尽会社」から信用金庫・信用組合・相互銀行３業態への再編成
第３講　戦後復興期における庶民金融機関の役割と苦労
第４講　高度成長期の始まりと伸び盛りの中小企業金融機関
第５講　金融正常化・金融効率化の要請下の中小企業金融機関
第６講　存続戦略を模索する信金・信組・相銀３業界
第７講　１９８０年代の金融自由化とバブル経済の到来
第８講　産業組合から分かれ出た市街地信用組合
第９講　戦争直後の激変のなかで生まれた信用金庫制度
第10講　制度発足10周年の信金業界
第11講　「信金銀行化論」を拒否した業界
第12講　１９７０年代以降における「信金らしさ」の追求
第13講　枝分かれした信用金庫としんくみ
第14講　押し寄せる小零細事業者の資金ニーズとしんくみ
第15講　地域型しんくみをめぐる信金業態との「棲み分け」問題
第16講　金融効率化行政のもと生き残り策を迫られる地域型しんくみ
第17講　「コミュニティバンク」を目指す地域型しんくみ
第18講　庶民金融の本流、「困ったときはお互い様」の無尽講
第19講　相互銀行業態の発足と「相互掛金」の退潮
第20講　「取引層のレベルアップ」と普銀との同質化の始まり
第21講　合併・転換法のもと「抜け駆け普銀化」にざわつく相銀業界
第22講　「普銀化」の「ゴーサイン」が転がり込んだ相銀業界
終講　「庶民金融機関のこころ」―「どうにか貸せるようにしたい」との気持ちで借入れ希望者と向き合う―

由里宗之（ゆり・むねゆき）　PROFILE

京都市生まれ、１９８２年京都大学文学部卒業（人文地理学専攻）、１９８４年　同経済学部卒業、大和銀行（現りそな銀行）入行、１９９０年　ハーバード大学ケネディ行政学大学院修了（公共政策学修士）、１９９６年　大和銀行退職、１９９６～１９９７年度　大阪市立大学経営学研究科後期博士課程（１９９７年度末に中退、のち２０００年に『米国のコミュニティ銀行』で博士［商学］学位取得）、１９９８年　中京大学商学部専任講師、２０００年同助教授、２００５年　中京大学総合政策学部教授、２０１８年度末に中京大学を早期退職、２０１９年　大阪市立大学大学院経営学研究科客員教授（２０２２年度から大阪公立大学）。

２００５～２０１０年　瀬戸信用金庫員外監事。全国信用金庫研修所・全国信用組合研修所などで講師役を約20年間務める。

主な著書に、『米国のコミュニティ銀行』（ミネルヴァ書房、２０００年）、『リレーションシップ・バンキング入門』（金融財政事情研究会、２００３年）、『地域社会と協働するコミュニティ・バンク』（ミネルヴァ書房、２００９年）、『日米地域銀行の存続と再編』（ミネルヴァ書房、２０１８年）などがある。

注文書	番線印	著者　由里 宗之 庶民金融機関の戦後史 大衆と倶に永久に栄えん 306頁／四六判／ソフトカバー／定価2,530円（本体2,300円+税10%） ISBN 978-4-8244-0046-8 C1033	冊
		発行：株式会社 三恵社　TEL 052-915-5211　FAX 052-915-5019	

ご注文はJRCへ　FAX：03-3294-2177

JRC 経由で、すべての取り次ぎへの出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。